

第 10 期 松戸市緑推進委員会

第 10 回委員会議事要録

1. 日時 令和元年 11 月 15 日（金）10：00～12：00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン （新館 5 階）

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・平岡考・木下剛・小谷幸司・高橋清・高橋盛男・上野義介
真嶋好博・石川静枝・高橋節・横山元・森令子・藤田隆

○松戸市

森岡浩司 （街づくり部審議監）
田辺久人 （公園緑地課課長）
布施優 （21 世紀の森と広場管理事務所所長）
青柳洋一 （みどりと花の基金理事長）
米澤和宏 （みどりと花の基金事務局長）
竹内茂樹 （公園緑地課長補佐）

○兼事務局（みどりと花の課）

岸秀一（課長）・三末容央（専門監）・北川茂和（課長補佐）・稲吉かなえ（主査）

○LAU 公共施設研究所（松戸市緑の基本計画策定委託受託者）

牧野・吉岡

事務局より本委員会の成立について、委員 14 名中 13 名の出席により成立している旨報告あり。

○傍聴 1 人

4. 議事次第

1 開会

1 議事

- 1) 議事要録の確認について
- 2) 緑の基本計画策定について
- 3) その他

1 連絡事項等

1 閉会

議事 1) 議事要録の確認について

会長

それでは松戸市緑推進委員会を開催する。

事前に送付した前回委員会の議事要録に異論がなければこれを以て議事要録としてよいか。

— 了承 —

今後何か意見があれば事務局へいただきたい。

議事 2) 緑の基本計画策定について

会長

緑の基本計画の策定について事務局の説明をお願いします。

事務局

先ずお手元の資料を確認させていただきます。

資料 1として「策定のスケジュール表」。

資料 2として、みどりのサロン部会からの報告。

資料 3として、「松戸市みどりの基本計画」原案（案）。

以上が本日の配付資料です。

過不足がございましたらおっしゃってください。

また、テーブルの上には本日の審議に関連する参考資料を置かせていただきました。必要に応じてお読みいただければと思います。

——— 不足分配付 ———

事務局

それでは、先ず「策定スケジュール」からご説明いたします。

スケジュール表の一番上、緑推進委員会の欄をご覧ください。

来年、3月に素案（案）の策定を目指し、緑推進委員会においては、このスケジュール表に記載のとおり、計画のほぼ全般において段階的ご意見を伺っているところです。

前回 9/27 の委員会では、基本方針①、基本方針②についてご審議いただきましたが、本日ご審議いただく内容は、基本方針③「みどりの市民力を豊かにする」及び基本方針④「みどりのあるライフスタイルを楽しむ」についてです。

毎回の委員会でいただいている皆様のご意見を踏まえ、また、同時期に策定を行っている「総合計画」や「都市計画マスタープラン」等との整合を図り、関係課と施策の内容の調整をし、重要度の高い施策については協議を行いながら計画をつくり込み、次回 12 月 26 日の緑推進委員会の際に、修正後の原案（案）を皆さんにご覧いただくこととなります。

更にその後、修正・調整を行ったものを「原案」として、来年 1 月を目途に庁内の策定委員会に諮り、修正を加えた後、来年 3 月を目途に素案（案）とさせていただきます。

本日は基本方針③と④について重点的にご審議いただきますので、先ず、これらに関連性の高い「みどりのサロン部会」の報告をお願いいたします。

委員

松戸の市民活動の資産の蓄積はかなり大きく、今後はいろいろなニーズに応えるというより、活動の継続性の担保や多様なみどりの利活用に重点をおく。今ある様々な活動を同じジャンルだけでなく他ジャンルとの連携やプロジェクトの試行を通じ、みどりの市民力を高めることや行政施策に反映させていくことができる組織体をつくりたい。法人格を持つ持たないは別として、ほんわかとした広場や野原のようなイメージの中で運営主体となるものが臨機応変にプロジェクトを立ち上げたり運営主体をつくれるという形をイメージしている。

組織の機能や役割は、上野委員が提案された非常に良いスキームをたたき台に進めた。先ずベースにあるアウトプットの部分として、これまで自分たちがやってきたことを整理して、松戸のみどりの市民力を打ち出し発信し、やりたいことのマッチングをしていく。また、これだけみどりの活動がありながら、アンケートからは市内外にあまりに知られていないので、プロモーションの一環としてアウトプット中心に展開していくことを話し合ったが、これまでの推進

委員会の議論の中に要素として大方含まれていると思う。

またサロン部会では、全体的なスキームを検討し展開を積み上げ、イメージを6月の報告書までにまとめたい。

委員

お金の話は避けて通れず、商業分野に踏み出すとすれば、フレームはふんわりとした臨機応変なプロジェクトを束ねる役割としてのフォーラムが必要になってくる。きちんとした目的や用途を打ち出した上で、しっかり循環して企業のCSR（企業の社会的責任）やSDGs（持続可能な開発目標）に絡めた施策として、きちんと説明が付くようにこちらも仕組みで展開やプロセスに盛り込めるような体制をイメージしている。

会長

フォーラムについての補足、質問、意見はないか。

今の想定だと「みどりと花の基金」との関係はどう整理するか。

委員

未整理だが、里やま応援団の方々は森林環境譲与税を見越して、ネットワークの中核となる運営組織をきちっとつくりたいとの意向があり、企業のスポンサー料を受けるイメージである。他方はアドバイザーとしての専門集団、専門家のコーディネーターや学識者のようなブレイン集団、エキスパート集団を想定し人材派遣領域の官民共同プログラムのなもので、その手当はみどりと花の基金に担ってもらえる可能性があるのではないか。お金を出しやすい何れかのプロジェクトでその外枠のサポートグループを考えていく。

委員

アウトプットとして検討されている「松戸みどりハンドブック」は面白そうだが、どのようなイメージか。

委員

松戸に今あるみどりの活動全てを網羅するもので、オープンフォレストではそれに近いものができていたが、その他に花壇づくり活動もあり、もっとビジュアル的に発信して行く媒体で、記録として残していくものが一つのイメージ、またもう一つはPRに使える訴求力を加えた媒体として発信していくイメージ。

会長

ハンドブックは面白そうで、市民が見て楽しいハンドブックが良いと思う。これまで長くやってきているのに、活動があまり知られていないことを何とか打破したい。また、プロジェクトの交渉やお金の収支、連絡などの事務局業務は、収入が得られ自前で持てるまで行政内に置くという考え方もある。

委員

組織の機能や役割の話では、中間的な所ではマッチングと運営の役割を担う松戸市民活動サポートセンターがあるが、やればやるほど仕事は増える側面がありやりきれない。みどりの場合は既に動き始めた活動が多く、スタートアップにかかる労力は少ない。重要なのは継続しているみどり以外の活動やNPO活動協議会の情報を使いこなすことで、継ぎ手のつくり方には綿密な調整が必要。

会長

基本方針③と④の説明をお願いします。

事務局

基本方針③と④について LAU 牧野より説明いたします。

LAU

原案（案）として、基本方針③の「みどりの市民力を豊かにする」と方針④の「みどりのあるライフスタイルを楽しむ」について説明する。

基本方針③は「3-1 各主体のみどりの市民力を高める」「3-2 みどりの市民力のネットワークをつくる」とした。

「3-1 各主体のみどりの市民力を高める」については、松戸のみどりの特長でもある「みどりの市民力」の継続と発展について記載しており、「みどりの仲間づくり」「人材の発掘・育成」「表彰制度の実施」「みどりに関する調査・研究の継続」を項立てしている。ボランティア団体へのアンケート結果から、「仲間」がキーワードになっていることがうかがえることから「みどりの仲間づくり」を項立てした。「人材の発掘・育成」では、現在行っている里やまボランティア入門講座等の継続だけでなく、新たな手法による人材育成の展開を書いている。「表彰制度の実施」では、予てから委員会でも議論をしている表彰制度について書いている。「みどりに関する調査・研究の継続」では、特に千葉大学との連携について書いている。

「3-2 みどりの市民力のネットワークをつくる」については、よく行政が縦割りだと言われるが、実はボランティア活動も縦割りになっており、高齢化や人員不足が課題となっている中、団体間のネットワークにより解決ができる部分、拡がりを持たせられる部分が出てくると考え、「活動団体の連携」「活動の連携を支援する体制づくり」を項立てした。ここについてはみどりのサロン部会による「松戸みどりのフォーラム」の議論を反映させていく。

基本方針④は「4-1 みどりを生かした多様なライフスタイルを広める」「4-2 みどりへの理解を深める取り組みを進める」「4-3 みどりのシティプロモーションを展開する」とした。

「4-1 みどりを生かした多様なライフスタイルを広める」については、アンケート結果に見られる市民の日頃のみどりとの接点について、どこにニーズと伸びしろがあるのか、何かあたらしい接点はないのかを考え、「みどりの遊びの創造」「みどりのあるライフスタイルの紹介」「みどりとふれあう身近なきっかけづくり」「みどりづくりを支える仕組みの拡充」を項立てしている。「みどりの遊びの創造」については、子どもの頃にどれだけみどりとの接点があるかが大事なことから、プログラムの充実や子育て団体との連携強化等を書いている。「みどりのあるライフスタイルの紹介」については、まだ内容が足りていない状況だが、みどりの楽しみ方を広く書いていきたい。また各地に事例がある「オープンガーデン」も提案している。「みどりとふれあう身近なきっかけづくり」では、サードプレイスとなるような居心地の良いみどりや、コミュニケーションが楽しみにつながるようなみどりについて書いている。「みどりづくりを支える仕組みの拡充」では、園芸相談や樹木医のアドバイス等による技術の向上に向けた支援、ニーズがありそうな訪問園芸についても書いている。

「4-2 みどりへの理解を深める取り組みを進める」では、みどりへの関心を高める取り組みについて「みどりの価値を理解する取り組みの推進」「みどりに関する学習の推進」を項立てした。

「みどりの価値を理解する取り組みの推進」については、例えば委員会でも話が上がった植樹の機会の確保や、大学等との連携によるみどりの社会実験の推進などを書いている。「みどりに関する学習の推進」では、みどりのフィールドにおける環境学習の必要性を考え、学校との連携による学習の推進について書いている。

「4-3 みどりのシティプロモーションを展開する」については、市民アンケートの結果から、「松戸市はみどりの活動が盛んであり高い評価を受けているにも関わらず、市民の認知度が低い」という現実があることから、もっと外に向けて情報発信をする必要性を書いており、「みどりに関する情報の発信」「みどりを楽しむイベントなどの充実」を項立てしている。「みどりに

関する情報の発信」では、活動を含めた「松戸のみどり」を市全体のシティプロモーションの一環として展開することを書いている。「みどりを楽しむイベントなどの充実」では、既に「緑と花のフェスティバル」をはじめとした多くのイベントが実施されているが、特にみどりのプロモーションにつながるような取り組みの必要性を書いている。以上です。

会長

基本方針③と④の説明があったが、質問・意見・アイデアはないか。

委員

みどりの市民力では活動の継続性を担保していく仕組みや制度が欲しいが、新しい制度や仕組みを開発するとすれば、基本方針のどこに入れるか。

例を挙げるなら、これまでに表彰制度を議論したが、ボランティアが入っている緑地の保全や活動の維持のプライオリティー（優先順位）を上げる考え方があると思う。

事務局

前回にも話したが、樹林地における新たな仕組みづくりは基本方針②の「里やまのみどりの新たな価値を創造する」という枠の中で考えている。中身はフォレストマネジメントの仕組みづくりで、ベースとなる台帳整理や、それを踏まえた活動等の評価システムを構築した上でメリハリのある管理の支援を書き込む予定。

委員

基本方針④の「みどりのあるライフタイムを楽しむ」について、サロン部会でも話があったがアウトプットが大事で、ここからパブリックリレーションズを基本にして拡げることがイメージしていくと、保全を前提とした上で、もっと緑地の積極的、有効的利活用を打ち出し、それを市民の発想力、想像力を活用しながらやっていくことを文言に入れてはどうか。みどりのシティプロモーションを考えていくときに、骨格となるのは単純な宣伝ではない。

会長

例えば、全体の組み立てにおける基本方針④に今のようなニュアンスを書き込む。また、具体的なアウトプットでは、「みどりに関する情報の発信」にもっと書き込めるものはないかという意見だったが、他にアイデアはないか。

委員

補足として、今の森の活動は高齢者が多く、保全維持管理の側面では若い人は飛びつかない。

「こんな魅力を提供したい → そのための森づくり」というアウトプットベースの発想の仕方があり、利活用という幅を広げた考え方は大事。

委員

「みどりへの関心を高める機会の確保」では、小学生は理科の勉強で「あさがお」や「ミニトマト」を育てているが、展示の機会などとリンクさせて、意識づけを考えてあげる。「みどりに関する学習の推進」では、学校では花壇のお世話をする係があるので、「子ども緑推進委員」を設置し、その子どもたちには育苗圃でつくったお花をあげたり、育苗圃で講習会に参加できたりする。学校などに出向いて行うのも良い。

会長

松戸でも「みどりの行動会議」が学校に出向いて木の名札付けを行ったことがあるが、そうした活動は他の自治体でも行っており、「学校との連携によるみどりの学習の推進」では、「こどもモニター」や「子ども緑推進委員」の活動も考えられる。

委員

子どもに農作業を体験させる意義については、基本計画の案にはその要素の多くは記載されて

いるが、お米はどのような作業を経てスーパーマーケットでパック詰めになって売られているか、我々が自然の中の仕組みの中で食べ物を得て生かされていることをどこかで書いて欲しい。農地については基本方針①に入っているが、子どもたちの学校や塾の日常と「みどり」は別々にあるわけではない。また、キーワードを振りまわすことに賛否はあるが、「生物多様性」や「生態系のため」という言葉を使うことは水戸黄門の印籠にあたるが、「みどり」の大切な要素としてどこかに概念が入れられると良い。

事務局

本日の手元の資料は基本方針③と④だけであり、記述が少ないように感じられるが、農との関係や生物多様性については、基本方針①と②、またグリーンインフラのところでも書き込みは行う。

会長

そうではあるが、基本方針③と④に落とし込んだ時に平岡委員の意見を含めて少しソフト寄りに表現できないか。体験をベースにした理解や生活と一体となった理解の必要性は重要な意見だった。また生物多様性については、まさに練馬区の事例で「練馬生きものつながり」に書かれているように、生き物を生活の中で楽しむというものだが、振りまわすというより、そんなニュアンスを入れられたらと思う。

委員

先日ラジオを聞いていたら、東京の幼稚園児が松戸の農家に芋ほりにやってきたことで、ちょうど2つの台風の到来を間近にしながらも子どもたちのために芋を確保してくれていて、東京ではできない貴重な体験ができたという話だった。松戸のみどりは樹木だけでなく農地もあり、もっと広い方面で見たい。しかし、それを松戸の子どもたちが体験しているかは分からないが、子どもが虫を手にとってみるができる体験を提供できる松戸にしてほしい。

会長

松戸は樹林地の保全には蓄積があり、花壇や公園の管理も頑張ってきた歴史があるが、今の意見のように、子育て環境は魅力的であり、先日21世紀の森と広場で網を持った親子が虫を捕まえていたので話を聞くと、自然の中で遊べる魅力を感じ子どものために都内から松戸に引っ越してきたと言っていた。自然に対する指向として、都市の中に「農」が多い松戸市ならではの魅力があり、重要な要素となり得る。ライフスタイルに農的ニュアンスを入れてはどうか。

委員

基本方針の①～④までに、連続性のあるみどりを見出し、グレードアップを図り、人を巻き込みながらみどりを付加したライフスタイル（食べる・住む・寝る・遊ぶ）の次なる展開を打ち出しておきたい。連続性の中でライフスタイルのバリエーションを増やしながらも、より豊かなみどりになっていかなければならない。これをバランス配分しながら書きぶりを工夫できれば良い。

会長

今の意見のライフスタイルを、昔「食う、寝る、遊ぶ」と言い、それとみどりをうまく一体化できると良い。特に基本方針④は「食う・寝る・遊ぶ」のみどりのある生活の目鼻立ちをはっきりさせて表現、例示できればわかりやすい。「生活との関わりや体験」をベースにしてみどりのあるライフスタイルを表現したい。

委員

先日「松戸駅周辺の将来を考えるワークショップ」に参加したが、駅周辺で居心地の良い場所とはどのようなものかという問いに対して、一番注目されたのは坂川筋だった。これまで坂川

は表ではなく裏のイメージがあったが表舞台に引き出し、それと同様に裏方だったみどりも表舞台に打ち出していく考え方はどうか。樹林地や農地、また庭は個人だけの庭ではなく、ヨーロッパのように外からの景観としての魅力づくりも考えた方が良い。

委員

基本方針④の「みどりのあるライフスタイルを楽しむ」には、松戸の住人だけでなく、働いている人も入れ、働くこととみどりの関係も入れたい。私は稔台の工業団地のそばに住んでいるが、松戸には古い工業団地や企業が多く、そのエリアの中のみどりは成熟し、なかなか良いところがある。その中で働くのも一つのライフスタイルと考え「食う・寝る・遊ぶ・働く」とする。工業団地のみどりを改めて評価し、ハンドブックの中に入れてはどうか。マブチモーターの庭園はきれいにしており、他にもきちんと手を入れている企業の緑地がある。そうした企業ガーデンをオープンにしてもらう取り組みも考えてほしい。

会長

今では多くの企業ガーデンがオープンにされており、常時オープンにできないところでは時期を限って人を付けて見せ、利用者の責任として行っている。また市民が企業の緑地を管理しているところもある。これまでは働く人の目線では議論がされておらず非常に良い指摘だ。

委員

社会活動の分野では「ひと・もの・こと」で分けられるが、ライフスタイルはひとベースで、対象が子ども、若者、高齢者、労働者、社会的弱者なのか鮮明にする必要がある。「ひと・もの・こと」の概念で施策を見直すと、足りないことや統合できることが見えてくる。

「みどりのあるライフスタイルの紹介」の例示はどこにでもありそうなものばかりで、もっと「こんなみどりの豊かな中で働いているんだ」と思えるようなエッジの効いたライフスタイルを紹介し、例えば若い人をターゲットとすれば「みどりの中でコーヒーを飲む」。我々世代なら「公園で酒をちょい飲み」のように、エッジの効いたライフスタイルを紹介し、みどりの価値をライフスタイルの中で見直す。こんなニュアンスが入っているとよい。

事務局

基本方針④は、イメージは湧いても如何に表現するか、どのように作り込むかを悩んでいるのでご教示いただきたい。

会長

「誰のライフスタイル」なのかは以前にも話したことがあるが、基本計画の冒頭に「夢」のような形で表現し、その実現のために計画をするという筋立てを考えていたが。それも含め、みどりと生活する楽しさが分かるようなアイデアを出しながらつくることが重要。

委員

「食う・寝る・遊ぶ・働く」の話で、松戸はアーバンの郊外であるが、八ヶ岳の森の村を指向するライフスタイルに向かうのであれば、街の雰囲気づくりは農・畑があって森があって結び付きはするが、まだやっていないみどりのライフスタイルの発掘も必要ではないか。例えば幕張のベイタウンで30m×10mほどの空き地を掘って、自治会がビオトープを造ったら、昆虫が生息し隣接する小学校の子どもが遊び、限られた作物であったが収穫体験もできた。また大宮の氷川神社参道2kmの植物調査を街づくりの補助金を得て行った事例もあり、私たちが松戸でまだやっていないみどりの発掘が見えてきた気がする。そんなみどりのライフスタイルをまだ松戸でも発掘できる。

委員

松戸でどのようなみどりの体験ができるかをこのライフスタイルの項で引き出してはどうか。

松戸は市街化調整区域であったために矢切耕地や金ケ作の緑が残っている。そういう松戸なればこその特徴を生かすために、「矢切耕地で農業体験ができる」や「市民農園ができる」のようなアピールの仕方もあるのではないかな。

委員

それも併せて、どんな人と結びつけるかが大切な視点であり、里やま入門講座で森の利用のワークショップをすると、必ず「森の赤ちょうちん」が出てくる。いろいろな人の居心地の良い場所としての視点が重要で、メニューとしてできることを発掘し、見えるようにしていく。

会長

研究室の学生が石川委員の協力を得て、紙敷のグラウンドを題材にして「居場所」に関する研究をしている。「居場所」の居心地の良さは、知っている人や仲間がいることが要素としてあることは基本方針④に書き込まれているが、形だけ整えてもダメだと思う。

「里やまボランティア入門講座」や「花づくり体験講座」は、これからも継続するものだが、「新たな手法による人材育成の展開」に具体的に書き込めるものとして、21 世紀の森と広場や公園づくりに、里やま Q の活動のように公園の仕事に関わるための講座や人材の養成ができないか。根木内歴史公園のようなモデルもあるが、公園づくりにもっと関わられるような市民ボランティアもあるのではないかな。例えば、千葉大学の学生が今研究のテーマで行っている「剪定枝の利用」は、あくまで社会実験として行っているので継続は困難であり、良い成果が見込まれるものであれば、誰かに引き継いでもらえるとそれでみどりの利用が広がることになる。

委員

公園での維持管理ではなく、例えば 21 世紀の森と広場で「紙ヒコーキ飛ばし」をしている人と一緒に子どもたちが遊べたり、コスプレの専属カメラマンを置いたり、いろいろな世代の公園での過ごし方をサポートする、冒険遊びでいうところのプレイリーダー的人材がいれば面白い。

委員

先日自宅で子どもたちと芋ほりとピーナッツの収穫を楽しんだが、子どもは芋を掘った後の穴掘りと、その後のピーナッツも収穫よりも土遊びに興じていた。神楽坂に住んでいる子どもたちは、地元の近くの公園で大人が見守る中で好き勝手な場所に穴を掘って遊んでも良く、水が使える、付添いの親は近くで話を弾ませ、暗くなるまで遊びに興じているらしい。誰かが見ている、子どもたちが勝手に遊べることは楽しいようだ。

会長

今の話は非常に大切に、子どもの居場所は誰かが見守ってくれていることが大切に、岡山市の事例である「外遊びノート」には雨でも外で遊べることが書いてある。岡山市では活動場所の公園で遊びのリーダーとして養成された「外遊びリーダー」がいるが、「見守ってくれている」「ちょっと注意してくれている」「ぎりぎりのところまで穴を掘らせてくれる」の要素があれば公園はもっと楽しくなり、活用されるかもしれない。

委員

「人材の発掘・育成」については、単に保全や維持管理をするための「育成」ではなく、ちょっとした関わり、サポートからはじまり、いつの間にか「育成」になっていたという流れが良い。里やま入門講座などのチラシの文言を見るとすごいことをしなければならないような、詳しくないといけないようなイメージを持ってしまいが、「いつの間にか関わっていた」的なやり方が世代的に入りやすいと思う。

委員

国の農業分野の人材育成に関わっているが、人材育成はゴールをどこに置くかが重要であり、

子どもであれば体験や遊び、中・高齢者であれば今後の人生の生きがい、働くことにリアル感が無い大学生はインターンシップなどみどりや環境の分野で体験を重ねプロセスを進めていくことでリアルを感じる。人は何らかのメリットが無いと動かず本気度も生まれないので、ゴールをどこに置くかを見える化するようなプログラムであることが大切ではないか。

委員

サロン部会では里やまボランティア入門講座のプログラムは新人研修や大学の新入生のオリエンテーションに使えるという意見が出ていた。また、一連の台風の被害で里やま応援団の活動では「倒木」に困っているが、道路や住宅地に面した場所は地主や行政が対応してくれるが、森の中の「倒木」は手当てのしようが無く、災害対応の施策が必要。

会長

様々な意見が出ているが、行政側で意見はないか。

公園緑地課課長

公園での活動については、行政側としてはやれることはやっていただきたい。金ヶ作自然公園ではプレイパークが組織的に行われているが、「やりたい人」がいても個人でそれを行うことは行政側も対応が難しい。21 世紀の森と広場でも遊具の無い中で自由な発想で遊んでほしいと、いろいろな方にご協力をいただいたが、いつでも遊べるようなメニューの提供まではできなかった。そうしたこともあり遊具の設置の検討が進められている。「やりたい人」の組織化を含め、ソフトへの対応が一番の課題だと思っている。

委員

遊具の話があったが、どのあたりにつくるのか。

21 世紀の森と広場管理事務所所長

21 世紀の森と広場には他の大規模公園と比較して子どもが遊べる遊具が無いという市議会や多くの市民の意見を踏まえて、現在遊具の整備の検討をしているが、財源や具体的な遊具の内容も決まっておらず、設置場所等について未だ報告できる段階でない。しかし、現在松戸市都市公園整備活用推進委員会において、遊具や当公園における様々な課題や今後のビジョンについて審議を行っており、遊具についての中間答申は松戸市の HP 上で情報公開を行っている。その中では光と風の広場の一部に公園の良さを生かした遊具の展開が提案されている。

会長

公園の運営協議会はないか。

公園緑地課課長

都市公園法の改正に伴い、昨年度、東松戸ゆいの花公園に協議会が設置され、地元の町会、結いの会（花壇ボランティア）、マグノリアコンサートの運営者が一緒になり協議会がつくられ、イベント等を行っている。

みどりと花の基金事務局長

今回、基金に対しての期待など貴重な意見が聴くことができ参考になった。こうした意見を踏まえ今後の体制の整備や課題に取り組み、市の各部署と連携し協議を進めていきたい。

事務局

みどりと花の基金事務局長から話があったが、基本計画策定にあたっては、今後新たな業務も生じることから、行政内での役割、機能の分担も含めて見通しを立てていきたい。

会長

今回の委員会では基本方針①～④を通して審議を行うことになる。

議事 3) その他

会長

その他に諮ることはないか。

無いようであれば審議はここまでとする。

— 傍聴者退室 —

連絡事項

事務局

<里やまボランティア入門講座 2019>

- ・今年で 17 回目
- ・10 月 17 日に 1 回目を行い、毎週木曜日の全 5 回の日程で 11 月 12 日に終了した。
- ・受講生 … 15 名（男性：10 名 女性：5 名）うち修了生 14 名
- ・緑推進委員会から参加
 - 柳井会長（みどりについての講義）
 - 高橋盛男委員（スタッフ兼グループワーク講師）
 - 小嶋委員（樹林地所有者として）

委員

今回の受講者はかなりやる気があり、「団体ができるか」「それぞれの団体に入る」かは分からないが活動に参加すると思われる。

事務局

<関さんの森 ふるさとの集い 蔵から見える昔の暮らし>

蔵や昔の生活、道具、古文書を見られるイベント。

- ・開催—11 月 17 日（日）10：00～14：30
- ・主催—関さんの森エコミュージアム
- ・後援—松戸市

21 世紀の森と広場管理事務所所長

<モリヒロフェスタ～おいしい・たのしい・おしゃんてい>

- ・開催—11 月 2 日（土）～11 月 4 日（月休）3 日間
 - ・来場者数—約 5 万 1 千人（3 日間合計）
 - ・ラーメン祭り、マルシェ、子ども向けプログラム、コンサート等の複合型イベントとして開催。
- 今年で 4 回目を開催したが、公園関係部局が事務局となり、これだけ大規模のイベントを開催する意義等については考えることもあるが、みどりを軸線とするイベントの企画・運営がある程度のラインでできており、みどりの視点からのイベントが充実しつつある半面、テラスモール松戸の開業と森のホール 21 の催事が重なり交通渋滞が起きたことから改善の余地はある。

<竹・管・景>

千葉大学園芸学部と松戸市で調査研究業務を実施している。

21 世紀の森と広場つどいの広場で竹のアート作品を展示し関心が薄い竹の管理作業や発生材に関心を高める目的とする。

<モリクルもりいくステーション>

森林資源の有効活用・遊び・集いの場をつくることをテーマに、みどりの里において、公園の管理作業において発生する剪定枝等を森の恵みと捉え自然とふれあえる材料としての活用を体験する。

<松戸アートピクニック>

11 月 9 日（土）～17 日（日）の期間で、公園に相応しいアート作品を展示している。平成 29 年度から 3 回目となる。「新たな風景と出会うアート散策」をテーマに招待作家井口雄介氏（現代美術作家）の 3 つの作品を展示している。

<21 世紀の森と広場ドコでもシアター>

12 月 1 日（日）1 回目 11：00～12：00 と 2 回目 13：30～14：30 にサクソ、キーボード、ベース、ドラムによる演奏を行う。開催場所は光と風の広場。

<全国ねぎサミット 2019in まつど>

11 月 23 日（祝）24 日（日）に JA 東葛中央と松戸市の共催により農業関連のイベント。詳細は HP から。

会長

モリヒロフェスタの入場者数はわかったが、この時期の土日には通常どれほどの入場者があるのか。

21 世紀の森と広場管理事務所所長

一日に 5 千人。

会長

1 日に 1 万人の上積みで 1 万 5 千人がこのイベント目当てに来園するというのか。満足度調査は行っているか。

21 世紀の森と広場管理事務所所長

モリヒロフェスタ開始以降、1 日約 100 人の来場者に対し感想をきいている。まだ集計中だが、前回までは 95%が「良かった」結果となっている。

会長

公園の満足度調査は 9 割を超えることは当たり前とは言われている。

「モリクルもりいくステーション」と「竹・管・景」は、21 世紀の森と広場の魅力向上のために千葉大学が受託研究として社会実験的に行い、「緑地管理」「アート」「運営」の 3 つのテーマを設定し、大学が培ってきた緑に関する分野の知見を社会に還元できる機会として、何か提案できないかを調査、研究することになった。公園の自然環境のデータ化、剪定枝等の発生材を材料としたアートの展示、発生材の活用等について提案を行っていききたい。

途中経過の話として、発生材の活用では、展示中には猫の爪とぎに欲しいという人や薪の材料の調達に埼玉の山奥に行ったがここでやってほしいと言われたり、カブトムシの幼虫の飼育に欲しいというひとなど様々なニーズがあった。無料配布は各地で行われているが、この場所でどんなことができるかを確かめている。

委員

この催しはいつまでやっているか。

会長

「竹・管・景」は先週の時点で 1/3 ができていて、12 月の第 1 週までは開催している。里やま Q の方に手を借りている。

事務局

次回委員会は 12 月 26 日（木）10：00 から市民サロンで開催する。

以上